

「熊野街道」空き家・町並み活用による まちなかにぎわいづくり 事業

概要

- 現状、漁業・林業等の地場産業及び商店街ともに厳しい状況。
- 一方で「熊野古道」の世界遺産登録や高速道路開通を大きなチャンスとして、市内への経済波及効果を生み出すため、商店街等に来訪客などの受け皿となるにぎわい空間をつくるためのプラン策定を実施。

三重県尾鷲市



◎検討会風景

事業の内容

事業内容

- 本事業では、熊野街道沿い等の市街地を重点地区として、まちなかにぎわいづくりプランを「観光交流の振興」と「市街地商店街の活性化」という二つの視点で検討を行った。観光客の消費活動の受け皿として「にぎわい交流空間」を機能させることで、市街地ににぎわいを取り戻し、地元客の取り込みも含めた、まちなかにぎわいづくりの調査及びプランづくりを実施した。

ポイント

- まちなかの実態把握：重点地区の商店分布や空店舗等の現地調査及び商店主や市民、熊野古道等の観光客へのアンケート調査により、課題やニーズ等の把握を行った。
- にぎわいづくりの方向性検討：事業の方向性等の参考とするため、全国5地域の商店街振興やまちなか振興の先進事例調査を実施した。
- 取組み方策及び事業推進体制の検討：具体的な取組み方策の検討及びそれら推進体制のあり方、各関係主体での役割分担、連携方策等も含め、検討会を開催した。

事業の成果

- 本事業の実施により、事業の方向性や取組みの柱、具体的なモデル事業(案)についてプランを策定した。今後の課題としては、来年度以降、実際のプレイヤーとなるまちなか振興組合等のマネジメント組織を設立し、事業を進めていくことが重要となっている。